

平成29年度行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	AI、ゲノム医療、iPS細胞等の最先端技術を活用した医療機器等に関する情報の収集、分析評価の体制整備事業費			担当部局庁	医薬・生活衛生局		作成責任者		
事業開始年度	平成30年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	医療機器審査管理課		課長 中井 清人		
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な条項も記載)	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第23条等			関係する計画、通知等	未来投資戦略2017(平成29年6月9日閣議決定)「遠隔医療・AI等のICTやゲノム情報を活用した医療」				
主要政策・施策	-			主要経費	その他の事項経費				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	AI、ゲノム医療、iPS細胞等の最先端技術を活用した医療機器等を適正かつ迅速に承認し実用化につなげるための基盤整備を図ることを目的とする。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	AI、ゲノム医療、iPS細胞等の最先端技術を活用した医療機器等を適正かつ迅速に承認し実用化につなげるための基盤整備を図るために、下記の業務を委託する。 ・「遺伝子検査システム」や「AI活用医療機器」に係る国内外の情報を常時収集し、その中から指定した重要な情報を随時報告する業務に要する経費を要求。								
実施方法	委託・請負								
予算額・執行額 (単位:百万円)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度要求		
	予算の状況	当初予算	-	-	-	-	35		
		補正予算	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-			
	計		0	0	0	0	35		
	執行額		0	0	0				
執行率(%)		-	-	-					
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)		-	-	-					
平成29・30年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	29年度当初予算	30年度要求	主な増減理由					
	検定検査事務等委託費	-	35	「新しい日本のための優先課題推進枠」35 AI、ゲノム医療、iPS細胞等の最先端技術を活用した医療機器等に関する最新の情報を収集し、重要な情報を随時キャッチアップするための基盤を整備するために必要な経費として新規要求となっている。					
	計	-	35						
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
	-	-	成果実績	件	-	-	-	-	-
			目標値	件	-	-	-	-	-
			達成度	%	-	-	-	-	-
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	-								

定量的な成果目標の設定が困難な場合	定量的な目標が設定できない理由及び定性的な成果目標	定量的な目標が設定できない理由		定性的な成果目標と26～28年度の達成状況・実績							
		当事業は世界中で発表される最新情報から薬事施策に重要な情報をキャッチアップすることを目的とした事業であるため、数値による目標設定が困難である。									
事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 31 年度		
	薬事施策における重要な情報につき、委託先業者から適切な報告を求めるための打合せの実施	委託先業者との打合せ件数	実績	-	-	-	-	-	-		
			目標値	件	-	-	-	-	4		
達成度			%	-	-	-	-	-			
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標			単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込		
	委託先からの国内外のゲノム医療等に関する情報の報告件数	活動実績	件	-	-	-	-	-			
		当初見込み	件	-	-	-	-	8,000			
単位当たりコスト	算出根拠			単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込			
	X: 執行額(千円) / Y: 報告件数(件)		単位当たりコスト	千円/件	-	-	-	-			
			計算式	X / Y	-	-	-	-			
政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策評価	政策	品質・有効性・安全性の高い医薬品・医療機器・再生医療等製品を国民が適切に利用できるようにすること(I-6)								
		施策	有効性・安全性の高い新医薬品等を迅速に提供できるようにすること(I-6-1)								
		測定指標	定量的指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度	
			-	実績値	月	-	-	-	-	-	
				目標値	月	-	-	-	-	-	
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係										
	世界中で日々発信される新たなゲノム医療に関する情報を収集し、それらを基に薬事規制における必要な施策を整備する体外診断用医薬品等の審査体制の基盤を強化することを通じて、有効で安全な体外診断用医薬品等をより早く医療現場に提供し、国民保健の向上を図ることを目的とする。										
	アクション・プログラムとの関係	改革項目	分野:	-							
		(第一階層) KPI	KPI (第一階層)			単位	計画開始時 - 年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
			-	成果実績	-	-	-	-	-	-	
目標値				-	-	-	-	-	-		
達成度		%	-	-	-	-	-	-			
(第二階層) KPI		KPI (第二階層)			単位	計画開始時 - 年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
		-	成果実績	-	-	-	-	-	-		
	目標値		-	-	-	-	-	-			
達成度	%	-	-	-	-	-	-				
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係											
-											

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明			
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	有効な体外診断用医薬品等をより早く医療現場に提供するため、体外診断用医薬品等の審査体制の基盤を強化する事業であり、ニーズを反映した事業である。			
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律に基づき、全国統一的に国が体外診断用医薬品等を承認する体制の基盤を強化するものであり、地方自治体や民間のみに負担させることは適さない事業である。			
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	有効性・安全性の高い新医薬品・医療機器を迅速に提供するという政策目標のもと実施されている事業であり、優先度の高い事業である。			
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-				
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無				
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無				
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-				
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-				
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-				
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	-				
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-				
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	-				
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-				
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	-				
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-				
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-				
	所管府省名	事業番号	事業名			
点検・改善結果	点検結果	-				
	改善の方向性	-				
外部有識者の所見						
点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
事業の必要性、効率性及び有効性の観点から、特段問題ない。						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
-						
備考						
-						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	-	
平成25年度	-	平成26年度	-	平成27年度	-	
平成28年度	-					

